



三田中だより

令和7年度 3月号
令和8年3月2日
港区立三田中学校

真の幸せとは

～ 幸せの感受性を高め、歩み続けよう ～

校長 上原 良枝

皆さんはホセ・ムヒカさんを知っていますか。名前を聞いたことがあるということはないでしょうか。彼は、南米ウルグアイの元大統領で、「世界一貧しい大統領」として知られています。

彼の大統領就任時の純資産が1,800ドル(当時の日本円の価値で20～30万円)、大統領給与の9割を貧しい人に寄付し続け、一般人の平均収入程で暮らしていました。そして、大統領になっても大統領官邸ではなく、郊外の質素な住宅に住んでいたのです。国連の会議では、豊かさを追い求める国際社会の在り方を批判し、こう言及しました。

「貧しい人とは、少ししか物を持っていない人のことではない。真に貧しい人というのは、際限なく物を欲しがり、永遠に満たされぬ人のことだ」と。

「幸せ」とは地位や名誉を手に入れたり、お金持ちになったりすることだと思える人がいるかもしれませんが。しかし、これらを手に入れても、自分が「幸せ」と感じられていない人がいます。一方で、これらを手に入れていなくても、幸せな人がいることにも気付きます。もしかしたら「幸せ」とは、何かを手に入れることではなく、日常の小さなことにも幸せだと感じる心をもつことではないでしょうか。

ホセ・ムヒカさんは、大統領だった10年ほど前に来日したことがあります。物資の豊かなこの日本を見て、ムヒカ大統領はどのように感じたのでしょうか。日本でのスピーチでの言葉です。

「富に執着して生きることはしないで欲しい。愛情を育むことや、子ども・友情 人生にとって変わらない価値があるものに時間を使って欲しい」

物資が豊かなことは決して悪いことではありません。しかし、私たちの生活、特に日本での生活は豊かになっているにも関わらず、幸福感は低下しているようにも感じます。幸せとは、どんな状況に置かれても幸せを感じられるようになること、つまり「幸せの感受性」を高くすることではないでしょうか。



いよいよ3月です。梅の花はもう2月中旬から咲き始めています。「寒苦に耐えて咲く白梅の花」とも言われるように、冬の厳しい寒さの中でじっと耐え抜き、やがて気高く、美しく香りの良い花を咲かせる白梅の姿を、この言葉は表現しています。これは、困難や苦しい状況(寒苦)に決してくじけず、それを乗り越えてこそ真の美しさや大きな喜び(花)が得られるという、忍耐や精神的な強さを象徴している言葉です。

自然の中で育つ作物も、冬が寒ければ寒いほど、実が甘く美味しくなるのです。これは科学的な根拠がありますが、苦勞をすればするほど最後には良い状態になっていくということが、何か人生訓のようにも思えます。中学生の皆さんにも、様々な苦勞や辛いことがあるでしょう。しかし誰も苦勞のない人生などありません。その苦勞を乗り越えたとき、大きな成長を遂げるのです。

3年生は卒業まで、あと半月ほどです。この三田中学校で学んだり培ったりした様々なことを、それぞれの進路で大いに生かしてください。1、2年生は進級します。一つ上級になるということに、心して臨んでください。

最後に、もう一つホセ・ムヒカ元大統領の言葉を送ります。

「人生で最も重要なことは勝つことではない。歩み続けることだ」

卒業式は3月19日です。この頃には、もう梅の花でなく桜の花へと移り変わりが見られるでしょう。

